

水稲現地栽培指導会資料（6月～8月）

令和7年5月28日

福島県県北農林事務所伊達農業普及所

1 気象経過（アメダス梁川 5/20まで）

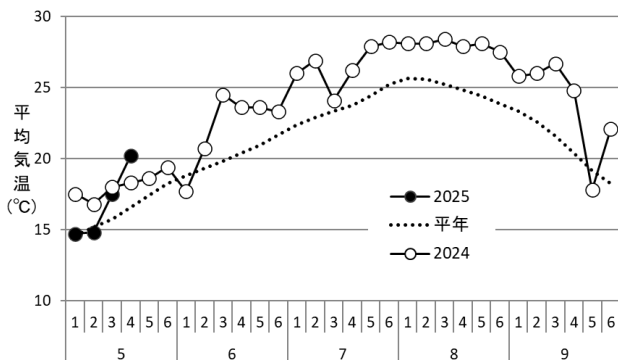


図1 平均気温の推移

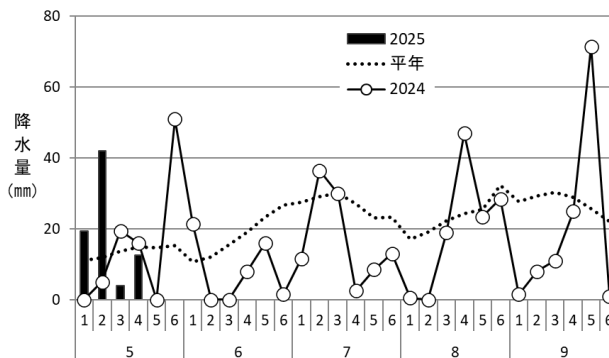


図2 降水量の推移

2 東北地方の天候予報（6～8月 3か月予報、仙台管区气象台5/20発表）

- 平均気温は高い確率50%、降水量は多い確率40%です。
- 東北南部の梅雨入りは、平年6/12（昨年6/23）です。

3 今後の栽培管理について

- 令和7年度の3か月予報では、平均気温は平年より高いと予想されています。追肥や飽水管理などの高温対策を行い、収量・品質低下の軽減に努めましょう。
- 令和6年産の1等米比率は82%と、令和5年産の49%と比較して大幅に回復しましたが、出穂期前後の日照不足と出穂後の降雨で、倒伏が多く発生し、刈取作業の遅延による収量・品質への影響が見られました。中干しやケイ酸資材等の施用を行い、倒伏防止に努めましょう。

4 高温対策

（1）出穂前の追肥

- ・ 品質低下軽減のため、通常施肥に加え出穂前に追肥を行うと白未熟粒が減少し整粒歩合が高くなります（図3）。
- ・ 天気予報（2週間、1か月等）で出穂期以降が高温と予想され、出穂期の葉色に著しい低下（葉色低下：SPAD値が32以下）が予想される場合は、出穂前の追肥を検討しましょう。

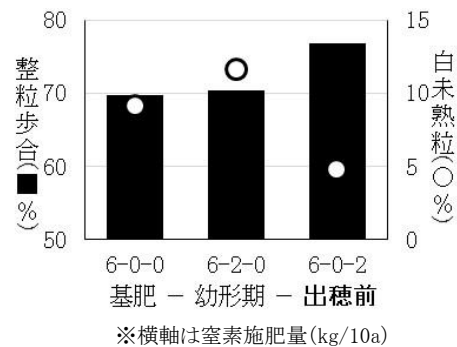


図3 追肥時期と品質

- ① 《基肥＋追肥体系》＋【窒素成分1kg/10a程度、※出穂3日前に判断】
- ② 《基肥一発肥料》＋【窒素成分1kg/10a程度、※出穂10日前に判断】

(2) 出穂後の飽水管理

- ・ 出穂期頃は浅水による湛水管理として、その後は間断かん水を基本とします。
- ・ しかし、出穂期以降が高温の場合は、飽水管理を行うと、水田の地温を下げ、白未熟粒を減らすことができます（図4）。
- ・ このため、平均気温が 26℃以上となる場合は、**飽水管理**（常に足跡や溝切跡に水が溜まっている状態、**ひたひた水**）で稲体温度の上昇を抑え、品質の低下を防ぎましょう。
- ・ なお、落水時期は出穂後 30 日を目安としますが、その後も高温が続く場合は、ほ場の条件等を考慮して収穫 7～10 日前まで走り水を行いましょう。

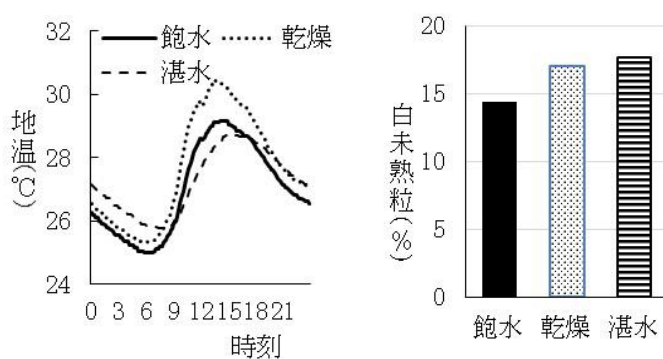


図4 出穂後の水管理による地温と品質



写真1 飽水管理

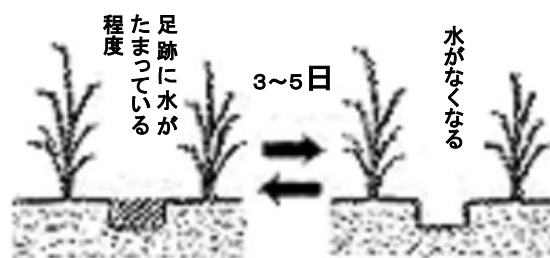
5 水管理

(1) 中干し（根の健全化・無効分げつ抑制・倒伏防止・地耐力の向上）

- ・ 有効茎数（23～25 本/株）が確保されたら、速やかに中干しを行いましょう。

目安： 天のつぶ： 6/20 頃～**7/5 頃**、 コシヒカリ： 6/25 頃～**7/10 頃**

- ・ 田面に 1 cm 程度のひび割れ、または人が歩ける程度の固さ（田面に足跡がつく程度）まで、5～7 日間を目安に田面を干します。
- ・ 砂質土壌の場合、田面が羊糞状になり、足跡に水がたまる程度の弱めの中干しにします。
- ・ 溝切り（排水に有効）は 10～20 条おきに 1 本を目安に行い、溝を排水口に確実に連結しましょう。
- ・ 中干し終了直後は、根腐れ発生防止のため、走り水を行い、急激な湛水状態にしないようにし、その後徐々に間断かん水に移行しましょう（図5）。



右と左を繰り返すのが間断かん水

図5 間断かん水のやり方

(2) 低温時の深水管理（幼穂の保護）

- ・ 穂首分化期（出穂 30 日前頃）以降、気温 20℃以下が予想される時には、深水管理とします。
- ・ 幼穂形成期（出穂 24 日前頃）に低温に遭遇すると耐冷性が低下し、減数分裂期頃（出穂 12 日前頃）の低温で障害不稔が増加するため、深水管理を行い、被害軽減に努めましょう。

水深の目安： 幼穂形成期 5 cm、減数分裂期 15～20 cm（幼穂の高さ以上）

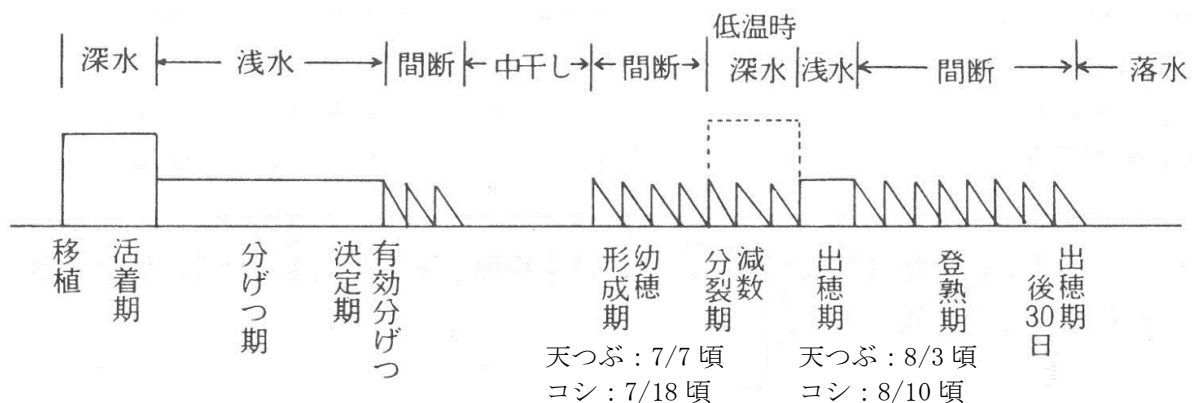


図6 水管理の模式図

6 追肥

(1) カリ、ケイ酸資材の中間追肥（6～7月）

表1 資材別の使用量と施用時期

資 材 名	使用量(kg/10 a)	施 用 時 期
ケイ酸カリ	15～20	出穂 40 日前 (天のつぶ: 6 月中旬 コシヒカリ: 7 月上旬頃)
塩化カリ	3～4	出穂 35 日前 (天のつぶ: 6 月下旬 コシヒカリ: 7 月上旬頃)

- ・稲体の体質強化を図る目的で行いましょう。
ケイ酸の効果：根張りを良くし、茎葉を丈夫にして、病虫害及び倒伏抵抗性を高めます。また、稲体の受光態勢向上により、群落の光環境を改善し、登熟歩合を高めます。
カリの効果：登熟歩合の向上や、粒の肥大を良好にします。また、根張りを良くし、根の活性を維持します。稈壁が太くなり、倒伏しにくくなります。
- ・天のつぶの割粃対策として、基肥でケイ酸カリを散布していない場合は、この時期に散布しましょう。
- ・ケイ酸は、栄養生長期よりも生殖生長期（出穂期以降）の方が施用効果は高いですが、ケイ酸カリは緩効性であるため、この時期に施用します。

(2) 穂肥（粒張り（登熟）向上）

表2 品種別穂肥の施用時期と窒素成分量

品種	施 用 時 期	窒素成分量 (kg/10a)
ふくひびき 天のつぶ	出穂 25～20 日前（幼穂長 1～2 mm）	2.0
コシヒカリ	出穂 15 日前（幼穂長 2～3 cm）	1.0～1.5

- ・側条施肥で葉色が低下した場合、早めにつなぎ肥（窒素量 1 kg/10a）を施用します。
- ・穂肥時期に葉色が濃い（草丈が伸びている）場合、穂肥を遅らせて出穂 7 日前頃に窒素量で 1 kg/10a を施用します。
- ・コシヒカリは、出穂前 15 日頃に草丈 85 cm 以上、葉色値（カラススケール）3.5 以上であると倒伏する危険性が高まるため、穂肥の施用時期を遅らせ、穂肥の施用量を少なくします。

- ・基肥一発肥料（緩効性肥料）を施用して、幼穂形成期頃に葉色が極端に低下する時は、穂肥を施用しましょう（基本的に穂肥は必要ありません）。
- ・砂質土壌では穂肥を2回に分けて実施するか、緩効性肥料(有機入り肥料)の施用が効果的です。
- ・**登熟向上を目的に出穂 10～20 日前にフジワン粒剤 3～4 kg/10a を散布しましょう。**

6 雑草対策

残草状況に応じて中・後期除草剤を散布します。除草剤の使用時期を確認し、早めに対応しましょう。

【ノビエと広葉雑草（ホタルイ、クログワイ及びオモダカ等）が残草した場合（薬剤例）】

除草剤名	使用量 (/10a) (散布液量)	使 用 時 期	使用 回数	施用方法
ツイゲキ豆つぶ250※	250 g	移植後 14 日（稲 5 葉期以降）～ノビエ 4 葉期（但し、収穫 60 日前まで）	1	湛水散布又は無人航空機による散布
レブラス 1 キロ粒剤	1 kg	移植後 14 日～ノビエ 4 葉期（但し、収穫 60 日前まで）	1	
ハイカット 1 キロ粒剤※	1 kg	移植後15日～ノビエ3.5葉期（但し、収穫60日前まで）	1	
フォローアップ 1 キロ粒剤	1 kg	移植後15日～ノビエ 5 葉期（稲 4 葉期以降）（但し、収穫60日前まで）	1	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
クリンチャーバスME液剤	1,000ml (70～100 L)	移植後15日～ノビエ 5 葉期（但し、収穫50日前まで）	2	落水散布又はごく浅く湛水して散布
ワイドアタックSC	100ml (100 L)	移植後20日（稲 5 葉期以降）～ノビエ 6 葉期（但し、収穫30日前まで）	2	

※アオミドロ・藻類による表層剥離に薬効

【ノビエのみが残草した場合（薬剤例）】

除草剤名	使用量 (/10a) (散布液量)	使 用 時 期	使用 回数	施用方法
クリンチャー 1 キロ粒剤	1 kg	移植後 7 日～ノビエ 4 葉期（但し、収穫30日前まで）	2	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
	1.5kg	移植後25日～ノビエ 5 葉期（但し、収穫30日前まで）		
トドメMF乳剤	200ml (25～100 L)	移植後14日～ノビエ 7 葉期（但し、収穫50日前まで）	2	湛水散布又は落水散布
ヒエクリーン 1 キロ粒剤	1 kg	移植後15日～ノビエ 4 葉期（但し、収穫45日前まで）	1	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
クリンチャーEW	100ml (25～100 L)	移植後20日～ノビエ 6 葉期（但し、収穫30日前まで）	2	湛水散布又は落水散布

【広葉雑草（ホタルイ、クログワイ、オモダカ等）のみが残草した場合（薬剤例）】

除草剤名	使用量 (/10a) (散布液量)	使用時期	使用回数	施用方法
バイスコープ 1キロ粒剤	1 kg	移植後14～60日 (但し、収穫45日前まで)	1	湛水散布、ごく 浅く湛水して散 布又は無人航空 機による散布
バサグラン粒 剤（ナトリウ ム塩）	3～4 kg	移植後15日～収穫45日前まで	1	落水散布又はごく 浅く湛水して散 布 ※散布後、最低 3日間は落水ま たはごく浅い湛 水（5日間）を保 つ。
バサグラン液 剤（ナトリウ ム塩）	500～700ml (70～100 L)	移植後15日～収穫45日前まで	2	

【その他（アオミドロ、藻類、表層剥離、クサネム、イボクサ）のみが残草した場合
(薬剤例)】

除草剤名	使用量 (/10a) (散布液量)	使用時期	使用回数	施用方法
モゲトン粒剤	2～3 kg	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 (但し、収穫45日前まで)	3	湛水散布又は無 人ヘリコプター による散布
	1～2 kg	藻類・表層はく離の発生時 (但し、収穫45日前まで)		
ウィードコア 1キロ粒剤	1 kg	移植後7日～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで) ※散布適期クサネム30cm、イボクサ40cm まで	2	湛水散布又は無 人航空機による 散布
ノミニー液剤	50～ 100ml (100 L)	移植後30日～クサネムの草丈40cmまで (但し、収穫60日前まで)	1	落水散布又はごく 浅く湛水して散 布
		移植後30日～イボクサの茎長30cmまで (但し、収穫60日前まで)		
ロイヤント乳 剤	200ml (25～100 L)	移植後20日～ノビエ5葉期 (但し、収穫45日前まで) ※散布適期クサネムの草丈70cm、イボク サの茎長60cmまで	2	落水散布、ごく 浅くして湛水散 布又は湛水散布

7 病虫害防除

(1) いもち病

- ・気温 20～25℃、日照不足、葉の濡れが長時間続き、稲体の窒素含有量が多いときに発生しやすくなります。
- ・**置き苗**は葉いもちの発生源になるので**早急に処分**しましょう。
- ・穂いもち対策で散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回を基本に散布、多発生が予想される場合は傾穂期にも追加で散布します。

【葉いもちの場合(薬剤例)】

農薬名	使用量 (/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
ビーム粉剤DL	3～4 kg	収穫7日前まで(分げつ期)	3	
ラブサイド粉剤DL	3～4 kg	収穫7日前まで(分げつ期)	3	
ノンブラス粉剤DL	3～4 kg	収穫7日前まで(分げつ期)	2	
ブラシン粉剤DL	3～4 kg	収穫7日前まで(分げつ期)	2	

【穂いもちの場合(薬剤例)】

農薬名	使用量 (/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
コラトップ1キロ粒剤12	1～1.5 kg	出穂30～5日前まで(出穂15～10日前)	2	湛水散布
フジワン粒剤	3～5 kg	出穂30～10日前まで 但し収穫30日前まで(出穂30～10日前)	2	湛水散布

(2) 稲こうじ病

- ・穂ばらみ期から出穂期にかけて低温、日照不足、多雨の年は、発生が多くなります。
- また、多肥でも発生が助長されます。

【稲こうじ病の場合(薬剤例)】

農薬名	使用量 (/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
モンガリット粒剤	3～4 kg	収穫30日前まで(出穂21～14日前)	2	湛水散布
Zボルドー粉剤DL	3～4 kg	出穂10日前まで(出穂20～10日前)	—	※葉が濡れていると薬害発生の恐れあり

(3) 紋枯病

- ・多肥、幼形期以降の高温(平均気温22～23℃以上)・多湿で発生が助長されます。
- ・前年度、被害株に形成された菌核が一次感染源になるため、前年度発生が多かった場合は必ず防除してください。また、過剰な施肥は避けましょう。

【紋枯病の場合(薬剤例)】

農薬名	使用量 (/10a) (散布液量)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
モンガリット粒剤	3～4 kg	収穫30日前まで(出穂28～14日前)	2	湛水散布
リンバー粒剤	3～4 kg	収穫30日前まで(出穂30～10日前)	2	湛水散布
バリダシン液剤5	1,000倍 (60～150 L)	収穫14日前まで(穂ばらみ～穂揃期)	5	
モンカットファイン粉剤20DL	3～4 kg	収穫14日前まで(穂ばらみ～穂揃期)	4	

(4) カメムシ類、イナゴ類

- ・水田周辺の草刈りをこまめに実施し、生息場所をつくらないようにします。また、出穂の10日前頃までに、地域一斉に草刈りを終了しましょう。
- ・出穂の早い雑草（ノビエ、ホタルイ）に集まるため、水田内に残草している場合は、早めに処理しましょう。
- ・散布剤の防除は、乳熟期を基本とし、発生状況により7日おきに追加防除を行いましょう。特に、天のつぶなど割粃が発生しやすい品種では、出穂20日後頃に追加散布を行いましょう。

【カメムシ類の場合(薬剤例)】

農薬名	使用量 (/10a)	使用時期 (防除適期)	使用 回数	備 考
スミチオン粉 剤3DL	3～4kg	収穫21日前まで(出穂期以降(乳熟期))	2	出穂前は1回
キラップ粉剤 DL	3～4kg	収穫14日前まで(出穂期以降(乳熟期))	2	
アルバリン粉 剤DL	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
スタークル粉 剤DL	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
ダントツ粉剤 DL	3～4kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
キラップ粒剤	3kg	収穫14日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	2	湛水散布
アルバリン粒 剤	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	3	湛水散布
スタークル粒 剤	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	3	湛水散布
ダントツ粒剤	3～4kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期～乳熟期))	3	湛水散布

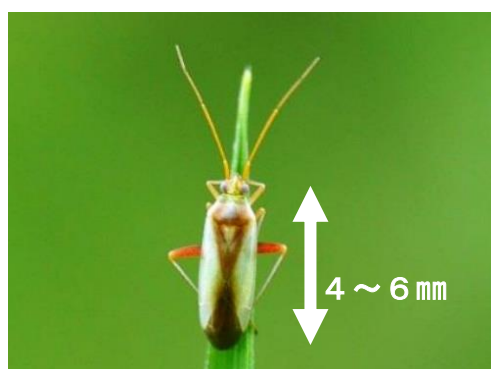


写真2 アカスジカスミカメ

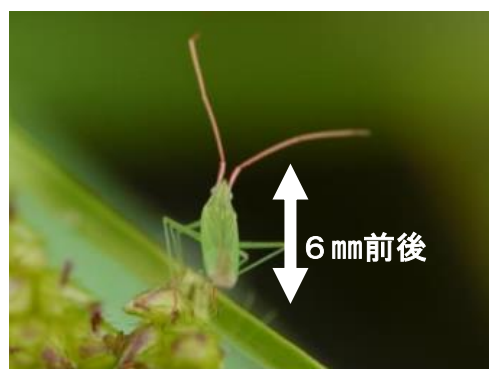


写真3 アカヒゲホソミドリカスミカメ

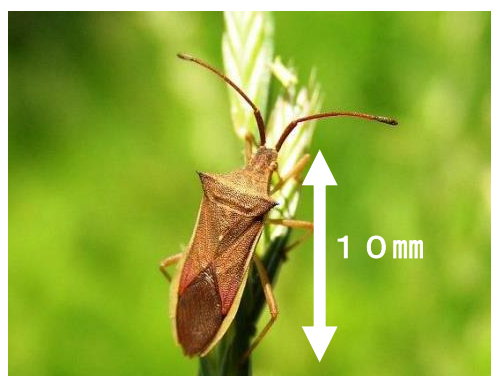


写真4 ホソハリカメムシ



写真5 クモヘリカメムシ

【イナゴ類の場合(薬剤例)】

農薬名	使用量(/10a)	使 用 時 期 (防除適期)	使用 回数	備 考
アルバリン粉 剤D L	3 kg	収穫 7 日前まで(6 月中～7 月上旬)	3	
スタークル粉 剤D L	3 kg	収穫 7 日前まで(6 月中～7 月上旬)	3	
トレボン粒剤	2 ～ 3 kg	収穫21日前まで(6 月中～7 月上旬)	3	湛水散布

- ★ 令和 7 年 5 月 14 日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。
- ★ 農薬は、使用前に必ず農薬のラベルを見て、使用基準を確認しましょう！
- ★ 農薬を散布する際には、風の強い日には散布しない、ドリフトしにくい散布ノズルなどを使用する、ドリフトしにくい剤型の農薬を使用するなど、ドリフト防止対策を行いましょう！
- ★ 除草剤の散布後 7 日間は止水管理とし、落水等は行わないようにしましょう！
- ★ 周囲にミツバチの巣箱が設置されている場合、殺虫剤を使用する際には、あらかじめ養蜂業者に連絡しましょう！
- ★ 防除を行った際には、忘れずに防除日誌へ記帳をしましょう！
- ★ 無理のない、余裕を持った慎重な作業で、農作業事故を防止しましょう！
- ★ これから暑い日が増えます。こまめな水分補給と休憩で熱中症を予防しましょう！
- ★ 万一に備えて、収入保険等の加入を検討しましょう！
- ★ 適切な生産工程管理のために、GAP シートで管理しましょう！
- ★ 地域計画の実践や農地中間管理事業の活用により、地域農業を守りましょう！